

野口幽谷のぐちゆうこく 明治二十六年帝室技芸員任命  
 《智仁勇》 三幅対

明治二十二年（一八九九）頃  
 絹本着色  
 本紙各一七六・三×五七・五

野口幽谷（一八二七～九八）は、江戸飯田町中阪に大工の子として生まれ、最初宮大工の鉄砲弥八について製図法などを学んだ後、椿山の門に入った。明治六年（一八七三）ウィーン万国博覧会、同七年湯島聖堂絵画展に出品した頃から頭角を現し、同十年第一回内国勸業博覧会では褒状を受賞。その後も内外の展覧会で受賞を重ねていく一方、同十九年明治宮殿杉戸絵の制作に参加するなど、帝室の御用もしばしば受け、同二十六年には帝室技芸員を拜命した。

さて、当初バリ万国博覧会出品のために宮内省が選出した画家六名の中には、幽谷の名も含まれていた。しかし幽谷は、明治二十九年に病に罹ったことを理由にこれを辞退し、同三十一年六月には没している。

本図は、明治二十二年に明治天皇と昭憲皇太后より嘉仁親王の立太子礼を祝って贈られる品として、「寿老人松鶴竹亀図（当館所蔵）」とともに制作が命じられたものである。画題となった「智仁勇」とは、『史記』『中庸』に記された三つの徳を表す言葉であり、幽谷は三幅それぞれに「智」を表す熊、「仁」の鷹、「勇」の鯉を描いている。幽谷は本図において、余白部分に墨と金泥を薄く刷き、熊、鷹、鯉それぞれの描写部分は塗り残した上で、師椿山ゆずりの没骨法を用いて対象を描き出している。それによって、「智仁勇」の象徴である三者の存在感がより強調され、あつさりとした色調を主体としながらも力強い画面を描き上げている。





- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

皇室技芸員と一九〇〇年パリ万国博覧会

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 47

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十年七月十九日発行

© 2008 The Museum of the Imperial Collections